

プレスキット

ヴァレオ、ラスベガスで  
CES 2017 に出展

## 目次

---

ヴァレオ、ラスベガスで CES 2017 に出展 .....	3
もっと自動化を、もっと電動化を：ヴァレオの 3 つのイノベーションに注目 .....	4
ヴァレオ eCruise4U .....	4
ヴァレオ XtraVue .....	5
ヴァレオ 360AEB ニアシールド .....	6
ヴァレオのドライビングへの知的な取り組み：2 つのイノベーションおよび戦略的投資 .....	7
ヴァレオ C-Stream .....	7
ヴァレオコックピット“エクスペリエンス・オブ・ドライビング” .....	7
人工知能でクルマはドライバーの習性を学習する .....	9
シェアードビークル：モビリティの新形態 .....	10
Navya .....	10
Mov'InBlue™：ユーザーに新たな可能性への扉を開くスマートキー .....	11
ヴァレオのイノベーション戦略 .....	12
CO2 排出量削減と直観的ドライビング .....	12
スタートアップ精神 .....	12
オープンイノベーションとインキュベーター .....	13

## ヴァレオ、ラスベガスで CES 2017 に出展

---

いま、自動車産業は **3つの変革**に直面しています。エンジンのルールブックは電動モーターやハイブリッドパワートレインといった代替技術の台頭によって書き換えられつつあり、自動運転車の開発が加速しています。そしてデジタルモビリティも、カーシェアリングと並行して動きが活発化しています。こうした変革が前例のない規模で進行しています。

このように車も IoT(モノのインターネット)という新たな領域へと動き出そうとしている今、変革の先頭に立つヴァレオは、ラスベガスで開催される CES 2017 で、5つの重要なイノベーションを世界初公開します。

- ヴアレオ XtraVue
- ヴアレオ 360AEB ニアシールド
- ヴアレオ eCruise4U
- ヴアレオ C-Stream
- ヴアレオコックピット

これらの技術を互いに組み合わせることで、新たな、そしてこれまで以上に電動化された環境負荷の少ないタイプのモビリティの形成と、高いレベルでの自動運転、高度化された知能による快適性の向上、そして拡張された接続性による高い共有可能性を実現します。

世界的な自動車保有台数の増大が予想される中、ヴァレオは車の安全性やエネルギー効率をより高め、自動化を進めるとともに、車への認知機能の付加に注力しています。つまり、車の使い方やドライビングエクスペリエンスがこれから完全に変わっていくということです。



**市場の変革が進む中、ヴァレオの数々のイノベーションは世界各地での幅広い採用をめざして、競争力のある価格で市場に投入されています。**

## もっと自動化を、もっと電動化を：ヴァレオの3つのイノベーションに注目

### ご存じですか？

ヴァレオは車の電動化の先駆者として、現在この分野で世界ナンバーワンです。

世界中を走る車の3台に1台に、エネルギー消費やCO<sub>2</sub>排出量を抑制するヴァレオの電気システムが搭載されています。

ヴァレオの電動化システムは、電動パワートレインを搭載していない車両を含め、あらゆる車への適用が可能です。

自動車産業における3つの変革を主導するヴァレオは、電動化・自動化という課題に対するこれまでにないソリューションを生み出しました。ヴァレオグループはラスベガスで開催されるCES 2017で、**ヴァレオ eCruise4U**、**ヴァレオ XtraVue**、そして**ヴァレオ 360AEB** ニアシーールドという3つのイノベーションを発表します。

### 1) ヴァレオ eCruise4U

ヴァレオ eCruise4U は市街地や郊外を低速で電動モードで走行でき、世界初の LiDAR (Light Detection And Ranging) によるコクーン(全周検知)を備えた自動運転車です。

ヴァレオ eCruise4U は自動運転技術と 48V ハイブリッドシステムの組み合わせで、燃費とCO<sub>2</sub>排出量を低減させつつ運転の快適性を高めます。

ヴァレオ eCruise4U イノベーションは、自社開発の5つの技術要素をベースとした自動ハイブリッド運転体験を提供するもので、現在市販されている車に搭載されています：

- **ヴァレオのセンサー群**は、車に周辺環境の完全な視界を提供します。カメラ、レーダー、LiDAR センシング技術を組み合わせて、あらゆる状況下で高度な自動化のためにシステムが必要とする堅牢性をもたらします。ヴァレオの LiDAR コクーンは車両の外周に搭載された6台の SCALA レーザースキャナーによって実現されます。

- **ヴァレオの認知ソリューション**は、車両の周辺環境を把握し、車両の制御に必要なデータを提供します。

- **ヴァレオの横方向・前後方向制御技術**は、電動モーターと内燃エンジンを併用するハイブリッドパワートレインに対応し、よりスムーズな制動と加速を実現します。

- **ヴァレオの新先進運転支援システム(ADAS) 電子制御ユニット(ECU)**は、融合アルゴリズムに基づき、センサー群からのあらゆる信号を分析し、何が起こるかを予測して車両を制御します。

### - ヴァレオの 48V e4WD(全輪駆動)システム

ヴァレオの 48Vシステムは、車両の使い勝手とコストの両面でメリットをもたらします。このソリューションでは、統合型ベルト駆動式スターター・ジェネレーター (iBSG 48V) が車両のエンジンに、電動リアアクスルドライブ (eRAD 48V) が後軸に搭載されます。これら2つの電動デバイスにより、車両の出力は 30 馬力前後、あるいは 22kW前後向上し、燃費が約 17%<sup>1</sup>改善されます。またeRAD 48Vモジュールは、価格を抑えつつ、全輪駆動による優れた安全性と快適性をユーザーに提供します。

<sup>1</sup> 燃料消費の予測はあくまでも参考値としてヴァレオが出したものです。実際の結果は、運転スタイルや車両の使い方などさまざまな要因により異なることがあります。

## ご存じですか？

交通事故の主な原因は、ヒューマンエラーです。ヴァレオのセンサー群と強力な分析ツールが、これらのリスクからドライバーを守ります。アメリカの政府組織であるNHTSA(米国運輸省道路交通安全局)によると、2015年にアメリカ国内で発生した交通事故の94%はヒューマンエラーが原因でした。

また、ヴァレオが開発したソリューションは、制動時のエネルギーを回収し、さまざまな用途に向けて48Vバッテリーに蓄えます。たとえば：

- ドライビングの快適性と省燃費のためのエンジントルクの向上
- 滑りやすい路面でのCO<sub>2</sub>を出さない完全電動モードによる運転

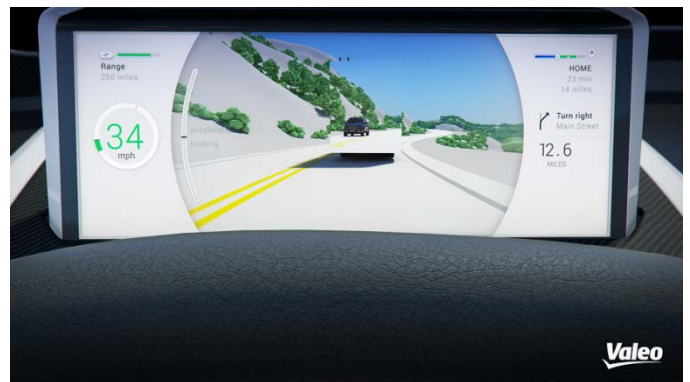
ヴァレオの48Vソリューションはあらゆるタイプの車両に、ガソリンとディーゼルエンジンどちらにも搭載可能です。

実用化に向けて、そして車のユーザーが安全性を犠牲にすることなく自動運転と電動化の恩恵を存分に受けられるよう、ヴァレオは、信頼できる目や耳の役割を果たし、車の周囲を行き交うあらゆるものを捉え、目に見えない藪(コクーン)を形成してユーザーを全方的に守るシステムの開発を進めています。異なる3種類のセンサーを組み合わせることで、昼も夜も、晴れのみならず雨や霧の日も、路上やその周辺の包括的な情報を提供します。カメラとレーダー、LiDARの技術を組み合わせ、人間の目では常に捉えているとは限らないものを、10cmから200m以上という広いレンジで検出します。これら3つのセンサー群が捉えた情報は、ヴァレオの強力なソフトウェアプログラムへ送られて、的確な判断の基となります。

## 2) ヴアレオ XtraVue

ヴァレオ XtraVue は、接続された複数のカメラによって障害物を視覚的になくすシステムです。

ヴァレオXtraVueは、車に搭載されたスマートアンテナ<sup>2</sup>を使い、ヴァレオのレーザースキャナーとコンピューター画像カメラシステムと組み合わせることで、ドライバーの視野に入らない路上で起きていることをドライバーに知らせ、他の接続された車や沿道のインフラに設置されたカメラからのストリーミング映像を自車のディスプレイに表示させます。既存の公衆4Gと車対車(V2V)ネットワークを活用してこれらのデータを統合し、シンプルかつ高度な路上の画像を生成します。ドライバーにとっては、いわば障害物が透けて前方が見えるような画像となり、よりよく情報を得た状態で意思決定が行えるので、特に追い越し時に役立ちます。



このイノベーションがあれば、スティーヴン・スピルバーグ監督は自身初の長編映画「激突！」を撮らなかつたかもしれません...

<sup>2</sup>ドイツ企業のパイカーをヴァレオが2016年に買収したのちに発足した部門によって開発された。

### 3) ヴァレオ 360AEB ニアシールド(自動緊急ブレーキ)

ヴァレオ 360AEB ニアシールドは、低速走行時に車両付近の歩行者を保護する革新的な技術です。

ヴァレオ 360AEB ニアシールドは、フロントとリアのバンパーに 4 台の小型カメラと超音波センサーを搭載するシステムで、車両の周囲 360°の視界を提供します。障害物になりうるあらゆるものの存在をドライバーに警告するだけでなく、衝突回避のために車両を自動停止できる点がこのシステムの最大のポイントです。死角を“消し去る”点において、この技術は SUV やピックアップトラックなどの大型車両の後退時に特に有効に機能します。

ヴァレオのイノベーションが現実的なのは、車両に既に搭載されている警告音やバックアップカメラなどの標準の車載機能を活用する点にあります。ドライバーがそれらの警告に反応しなかったとき、ヴァレオの 360AEB ニアシールドはブレーキを適切に作動させて介入します。このシステムは特別なアルゴリズムに基づき、対象物が静止していても動いていても検知します。このように、ヴァレオのイノベーションは歩行者、車両、そしてその乗員を保護します。

2018 年

アメリカで販売される全ての新型車両を対象にバックアップカメラの搭載の義務付けが始まる年。



## ヴァレオのドライビングへの知的な取り組み： 2つのイノベーションと戦略的投資

ラスベガスで開催される今年の CES で、ヴァレオは車室内をより安全で快適に、より使いやすく、そしてドライバーや同乗者の潜在的なニーズにこれまで以上に対応するために開発された数々のイノベーションを世界初公開します。快適性や安全性への従来のスタンダードを変えるこれらのソリューションが、ドライビングへの新たな扉を開きます。

### イノベーション No. 1 ヴァレオ C-Stream

ヴァレオの新しい C-Stream ドームモジュールは 2 つの主な特徴を備えています：

1. ドライバーと同乗者を撮影する室内カメラを使い、システムが車室内の様子を把握することで、これまで想像できなかった多くの利点が生れます。たとえば、助手席にどのような乗員がいるかを検知してエアバッグシステムの作動を調整し、安全性を高めることができます。そのほか、車を安全で快適にするための情報には、乗車人数、助手席の荷物の有無、そして警告に対するドライバーの認識レベルがあります。ヴァレオの C-Stream が搭載された自動運転車では、一定時間の自動運転の結果をもとに、ドライバーが運転操作に戻るべき最適な時間をドームが即座に算出することも可能です。
2. 従来のルームミラーは不要になります。車両後部に搭載されたカメラを使うこのシステムは、ドライバーの視線上にあるドームの反対側に車両後方の画像を投影し、視界の狭さ、死角、その他従来のルームミラーが持っていた制約からドライバーを開放します。ヴァレオの C-Stream で、ドライバーはより高い快適性と安全性を得つつ、目の疲れも軽減することができます。短距離・長距離で画像を切り替える時間も必要なくなります。再設計されたリアビューモジュールは車室設計の点でも新たな道を切り開きます。たとえばリアウィンドウはこれまでよりも小型に、そして後席の乗員にはより良好な前方視界を提供できるようになります。



ヴァレオはまさに車の中に繭(コクーン)を作り出しました。



### イノベーション No. 2: ヴァレオコックピット

今年の CES で、ヴァレオはエクスペリエンス・オブ・トラベリング・コックピットを発表します。テクノロジーに満ちた未来感溢れるそのデモ機で、半自動運転車のドライバーと同乗者が新たに享受する車の新たなニーズと使い方に向けたソリューションを紹介します。このソリューションは、ドライビングエクスペリエンスにおける 3 つの独立したフェーズに対応します：完全にドライバーが運転する際の「ドライビングタスク」、半自動運転車が運転を行う際の「トラベリングエクスペリエンス」、そしてドライバーが車の運転操作に戻る際の「バクトウドライブ」です。

「ドライビングタスク」フェーズでは、安全性を高めるために、車室内環境は運転支援機能をサポートします。

- ・フロントガラスに投影される光が、たとえば、ドライバーへ単純かつ直観的に路上の危険に注意するよう促します。また、システムがドライバーの疲労を検知すると、眠気覚ましフレグランスを吹きかけ、集中を促します。
- ・車室内の照明に搭載された動くライトが、ドライバーの視線の外に車がいること、車線変更が安全でないことをドライバーに伝え、死角の克服に貢献します。
- ・車室内の照明によるスクロールライトが加速・減速時の気分を表し、ドライビングの喜びを高めます。

「トラベリングエクスペリエンス」フェーズでは、ドライバーは運転操作を車に任せ、ゆったりと座り、一乗員として移動を楽しむことができます。室内灯は柔らかな光へと切り替わり、リラックスできるフレグランスが室内を満たし、旅は真の感覚的エクスペリエンスへと姿を変えます。このフェーズでは乗員の快適性に重点が置かれます。

ヴァレオは、車室内の空気を清浄しリフレッシュするイオン発生器の照明システムも考案しています。高密度のマイナスイオンを含んだ空気は乗員をリラックスさせ、森の中や海沿いを歩いているかのような感覚を与えます。イオン発生器は、呼吸をしているように上品で包み込むような透明感ある光を放ち、車室内の空気を清浄にしていることを乗員に伝えます。イオン発生器は視覚的にも物理的にも、即座に落ち着きを作り出します。

- 乗員の快適性のために、車室内には人のジェスチャーを認識する技術を用いたスマート読書灯が装備され、乗員は光の広がりを手の動きで調節することができます。
- コックピットにはヴァレオ独自の革新的なクーリングミストディスペンサー、AquAIRius®も搭載され、爽やかなミストを噴射することで日差しによる暑さを即座に和らげます。このシステムは車室内の湿度も適切に保ち、最適な快適性をもたらします。



「バックトゥードライブ」フェーズでは、車室内全体で点滅するライトがドライバーの視線をステアリングコラムへと誘導し、その注意を路上へと集中させ、安全に車の制御をドライバーへと戻します。

ヴァレオはこのコックピットを使って、車の新たな使い方とともに感覚的なエクスペリエンスを生み出すための独創的・革新的な製品の数々を紹介します。

2016年6月、ヴァレオはインテリアライティングシステムの世界的な開発において2つの重要な節目を迎えたことを発表しました：

1. ヨーロッパのプレミアムカーメーカーのSUV16万台向けにインテリアライティングシステムの生産を開始。
2. 3大陸で生産される予定の27車種向けにインテリアライティングの開発が進行中。2021年には年間二百数十万台がヴァレオのライティングを搭載することになる見通しです。



## 戦略的投資

### 人工知能でクルマはドライバーの習性を学習する

ヴァレオは、スタートアップ企業 CloudMade の 50%の株式取得を発表した 2016 年 11 月 10 日から 2 カ月後にラスベガスで開催される今年の CES で、他に類を見ない CloudMade ソリューションを発表します。CloudMade は、機械学習に代表されるスマートで革新的なビッグデータ方式の自動車向けソリューションのディベロッパーです。この株式取得により、ドライバーと乗員のために車の快適性と安全性を高めるとともに、より高度な個別対応をしていくことを目指しています(以下を参照)。

このイノベーションで、ヴァレオは車を新たな時代へと導きます。これまでの学習の考え方は、人間が車の運転方法を学ぶという方向のみでした。これからは、車がユーザーのことを学習し、多くの恩恵をユーザーにもたらすようになります。システムのソフトウェア構造はドライバーの習慣を理解するように設計され、ニーズを予測し、快適性に気を配ります。これによって車は、ゼロクリックナビゲーションでドライビングの始まりから終わりまでドライバーをアシストし、個人ごとに多彩な旅程を提案し、また加速レーンやジャンクションなどに潜む危険を予測することが可能になります。ヴァレオと CloudMade は、より手厚い運転支援、より多くの機能、安全性の高度化、そしてストレス低減のために、車の使い方を完全に考え直しました。

ラスベガスで開催される CES 2017 の来場者の方々は、実際の交通環境下で行われるデモンストレーションでこのイノベーションを目の当たりにするでしょう。

---

CloudMade は機械学習と人工知能の分野で先駆的なスタートアップ企業で、自動車向けアプリケーションの開発に注力しています。ヴァレオによる投資は、同社にその開発を完全に遂行するうえで必要な財務的・技術的リソースをもたらします。

ヴァレオの運転支援アプリケーション(センサー、カメラ、レーザースキャナーなど)や、接続性、マン・マシン・インターフェース、そして空調ソリューションの開発に必要な技術的専門性を、CloudMade のビッグデータ処理コマンド、人工知能、予測エンジンと組み合わせることで、CloudMade はドライバー一人ひとりに継続的に対応する運転支援機能を備えたソリューションを自動車メーカー各社に提供できるようになります。この抜本的かつ革新的な製品が、直観的ドライビングと車室内の快適性の両面においてユーザーエクスペリエンスを高めることになるでしょう。

---

**“マシンとの競い合い”**: ヴァレオはラスベガスで開催される CES 2017 で、来場者に機械学習と人工知能(AI)に直接触れていただくために、ヴァレオの技術者が開発した人工知能システムと対戦するバーチャルラリーレースのゲームを出展します。ヴァレオの AI は難しい状況下でも車を操縦することができ、すでに未来の自動運転車の可能性を開こうとしています。

## シェアードビークル： モビリティの新形態

Navyaはドライバーを必要としない電動シャトルバスNavya Armaを世界中の民間の事業所や公共交通向けに展開中です。



NavyaはCES 2017に100%自動運転可能なEV、Navya Armaを出展します。ヴァレオのテストコース (NP4) では、自分で周囲の環境を認識し、障害物を検知して状況に応じて適切に対応するこのドライバーレスな車を体験することができます。

Navyaは、革新的かつスマートで持続可能なモビリティソリューションの開発に特化したテクノロジー企業です。Navyaは、人やモノを運ぶ高度な交通手段として、ドライバーを必要としない自動運転型のEVを開発しています。インフラに依存しないこの自動運転車は、市民の移動手段や事業所に勤務する従業員の生産性に変革をもたらします。

2015年10月、Navyaは100%自動運転でドライバーを必要とせず、最大15人が乗車可能な電動シャトルバスNavya Armsの提供を開始し、今では様々な民間事業所や公共交通で運行に供されています。

この車は搭載された数多くのセンサーと車載コンピューターを使い、周囲とやり取りすることができます。Navyaは、実際のフィールドでの経験と有能なR&Dチームを有し、自動運転とEVの技術領域に強みがあります。

2016年10月、Navyaの株主は3,000万ユーロの増資を全会一致で承認しました。フランスの企業グループであるヴァレオとケオリス、カタールのグループ8が、2015年に加わったGavitationとCapDecisif Management、および当初から出資しているRobolution Capitalとともに、同社の株式を取得しました。

[www.navya.tech](http://www.navya.tech)

## Mov'InBlue™: ユーザーに新たな可能性への扉を開くスマートキー

Mov'InBlue™はコンサルティング、技術、アウトソーシングサービスの分野においてリーダーであるキャップジェミニと共同で開発した、セキュリティ性の高い車両予約と車両管理のためのソリューションです。ヴァレオの InBlue®スマートキー技術をベースとし、ユーザーは車の施錠・開錠とエンジンの始動を全て自身のスマートフォンから行うことができます。

Mov'InBlue™によって、レンタカー会社は対面での受付や営業時間、長時間の電話対応や空車探しといった面倒な業務から解放され、車の引き取りから返却までの全てにおいて徹底したデジタルエクスペリエンスを顧客に提供することができます。また、Mov'InBlue™を活用することで点検や清掃、給油その他メンテナンスなどで車が稼働できない時間を抑制でき、時間貸しなどの新たなビジネスモデルを生み出す余裕が生まれます。

このソリューションによって、企業の車両管理担当者は、たとえば予約日程の調整やキーの管理を最適化して効果的なカーシェアリングの促進を図ることができます。メンテナンスや稼働率その他のデータをリアルタイムに収集することで、保有車両の台数や空き状況を管理することも可能です。

Mov'InBlue™が持つ数々の卓越した機能で、ユーザーは携帯電話のネットワークに接続することなく車の施錠と開錠をすることができます。路上を行き交う車の 95%に対応し、将来的な自動車メーカー各社の純正装着ソリューションにも対応するため、技術的なアップグレードが継続的に行われます。



13 億

ユーロ

を研究開発に投資

1,406 件

の特許出願

12,000 人

のエンジニア

19 カ所

の研究センター

35 カ所

の開発センター

CO<sub>2</sub> 排出量の削減と直観的ドライビングに注力したイノベーションが、ヴァレオの戦略の基盤です。最先端技術をリードするためにヴァレオグループが保有する豊富なリソースは、その戦略にコミットしていることの表れです。2015 年のヴァレオの研究開発の概況は、13 億ユーロの投資、1,406 件の特許出願、12,000 人のエンジニアとテクニシャン、研究センター19 カ所、開発センター35 カ所という数字に表れています。

### 2つの主な優先分野

#### 直観的ドライビング

各種市場調査によると、ドライバーは交通渋滞や長距離移動、駐車操作など、運転にまつわる退屈なことを避けて、その時間をエンターテインメントや休憩、あるいは仕事や電話など他のことに充てたいと考えています。こうした顧客の期待に応えるため、ヴァレオは直観的ドライビングのコンセプトを考案し、大きな注力分野となりました。このコンセプトはヴァレオのあらゆる技術を包含しており、車をより直観的で安全に、そしてユーザーエクスペリエンスに基づいてより運転しやすくします。

ヴァレオは既に運転支援の分野で世界的なリーダーであり、自動駐車や高速道路での自動運転を可能にする技術を有しています。これにより、ヴァレオグループでは顧客ニーズに対応する体制が既に整い、ヴァレオ Cruise4U からヴァレオ InBlue<sup>®</sup>などのコネクテッドサービス、リモート Clean4U<sup>®</sup>など幅広い技術を提供して、成長を続けるこの市場であらゆる機会を先行して捉えています。

#### CO<sub>2</sub> 排出量削減

ヴァレオの研究開発戦略では、低炭素モビリティへの移行を促進し、運転性能や楽しさを犠牲にすることなく燃費を低減し CO<sub>2</sub> や汚染物質の排出量を削減するというヴァレオグループの目標も追及しています。ヴァレオは、内燃エンジンの効率向上、パワートレインの電動化、車両総質量やサーマルマネジメントシステムの最適化に向けた革新的な技術の開発を通じて、それらの課題に取り組んでいます。

同時にヴァレオは、都市部の交通事情から法規性まで世界中の社会トレンドを常に把握し、車を購入する人々の期待に耳を傾け、業界の構造的な変化を先読みしています。こうした取り組みは、CO<sub>2</sub> や汚染物質の排出量削減から原材料の使用量低減に至るまで、ヴァレオでの技術的なイノベーションへの優先順位を決定づけています。

### スタートアップ精神

接続され自動化されたクリーンな車は、これまでほとんど前例がありませんでした。こうした車を開発し生み出すために、自動車産業はますます多様化するスキルを取り込んでいく必要に迫られています。そのためヴァレオは、スタートアップ企業から大学、主要な企業グループまでを対象に、さまざまな規模や専門分野において連携を図っています。

## オープンイノベーション

ヴァレオは、社会の大きな潮流に対応し、顧客のニーズに合う製品を生み出し続けるべく、敏速さと柔軟さを基調とした適応性の高いイノベーション戦略を追求しています。このため、ヴァレオグループでは創造性の源泉と協業形態の多様化を図り、3年連続で開催している学生を対象にしたヴァレオ・イノベーション・チャレンジ、革新的スタートアップ企業への国境を越えた投資に特化した自動車関連専門の投資会社キャセイキャピタルの株式取得、サフランおよびモービルアイとの業務提携、アレディアの株式取得、そしてイベオとの業務提携への調印といった取り組みを行いました。



## ヴァレオ・イノベーション・チャレンジ

学生との接触機会をさらに増やすため、ヴァレオは 2013 年にヴァレオ・イノベーション・チャレンジと題して斬新なタイプのコンテストを開始しました。このコンテストでは、2030 年までに車をこれまで以上にスマートで直観的にするための新たな製品やシステム、もしくは車の新たな使い方についての提案を学生から募りました。ヴァレオではこのコンテストを生かし、アカデミックな世界との結び付きを強めることで、オープンイノベーション戦略の構築を狙っています。

## スタートアップインキュベーター

ヴァレオが一流の企業グループである理由は、どうやってスタートアップ精神を育むべきかを知っているからです。ヴァレオは、イノベーションの中央管理をあえて行わず、世界中に展開する 19 の研究センターと 35 の開発センター、そして世界中の顧客のために価値あるモビリティソリューションを迅速に生み出す能力を持つ自律性の高いチームをうまく束ねるという考え方を実践しています。

これにより、ヴァレオは常に外部と連携して研究開発を推進し、スタートアップ企業と個別にたゆまぬ交流していくことを重視してきました。この中には 2007 年のコンナートエレクトロニクス（現在はヴァレオグループにおけるカメラのエクセレンスセンター）のように買収へと発展した事例もありました。他にも LED のスタートアップ企業アレディアの株式取得という例があります。

ヴァレオはまた、2016 年にいくつかのベンチャーキャピタルの株式を取得してオープンイノベーションのエコシステムを強化し、サンフランシスコのベイエリアや上海、フランスその他で勢いのある地域のスタートアップ企業との接点を、世界レベルで確保しつつあります。この取り組みは意欲的な起業家たちの間でヴァレオグループへの認知度と関心度を高め、すでに月間百数十件の引き合いを生み出しています。

### ご存じですか？

ヴァレオは 2015 年にトムロン・ロイターが選ぶグローバルイノベータートップ 100 に選ばれ、世界で最も革新的な 100 社の一つとしてランクインしました。

## 参考

---

ヴァレオの最新ニュースをソーシャルメディアでご覧ください。

Twitter: [https://twitter.com/Valeo\\_Group](https://twitter.com/Valeo_Group)

Facebook: <https://www.facebook.com/Valeo.Group/timeline>

LinkedIn: <https://www.linkedin.com/company/valeo/>

YouTube: <https://www.youtube.com/user/ValeoGroup>